

予言獣大凶鑑の

著者がオススメする

予言獣関連書

10冊!

二〇二〇年、コロナ禍でにわかに注目をあびた
厄災を予言し、回避する方法を伝えるという

謎の生き物——予言獣（よげんじゅう）。

そんな予言獣に魅せられた『予言獣大凶鑑』の

著者4人にオススメの関連書を選んでみました!

ぜひ読書の参考にしてください!

好評
発売中!





東雅夫『クダン狩り 予言獣の影を追いかけて』

(白澤社、2021、¥1870)

クダンに強い関心を持ち、季刊『幻想文学』や同人誌などで特集を組んだ著者の2000年前後の論集です。傑作とされる内田百閒『件』や小松左京『くだんのはは』の小説に加え、巻末に対談も収録したクダンオンリー本です。【笹方】



村上紀夫『怪異と妖怪のメディア史 情報社会としての近世』

(創元社、2023、¥2640)

「怪異は情報でしかない」。その情報の内容だけでなく、情報を入れる容器のメディア(情報媒体)を主体として考察した近世メディア論の集大成。近世の人々は怪異をどのように伝え、記録してきたのでしょうか。【笹方】



小松和彦『妖怪学の基礎知識』

(角川選書、2011、¥1980)

そもそも妖怪とは何なのか? 日本の妖怪の歴史や種類や語られ方、学問上の扱われ方まで、予言獣を内包する(かもしれない)「妖怪」という巨大で不定形な概念に挑むための最初の一冊になってくれる本です。【峰守】



香川雅信『江戸の妖怪革命』

(角川ソフィア文庫、2013、¥859)

江戸時代の都市部では、怖かったはずの怪異は娯楽や興味の対象となり、やがて、妖怪のような「実在しないもの」を絵や文章で表現する文化が開花。予言獣たちが生まれた背景を理解したい方にお勧めする一冊です。【峰守】



湯本豪一『日本の幻獣図譜 大江戸不思議生物出現録』

(東京美術、2016、¥2530)

「予言獣」の語を世に広めた湯本氏。その妖怪資料コレクションから「幻獣」資料を多数収録。予言獣についても多くのページが割かれています。フルカラーで図版も大きく、『予言獣大図鑑』と併せて眺めたい一冊です。【長野】



水木しげる『決定版 日本妖怪大全 妖怪・あの世・神様』

(講談社文庫、2014、¥2200)

数ある水木妖怪図鑑のなかから、ハンディかつ895もの項目を収める本書をお勧めします。予言獣はアマビエ、くたべ、件の3項を収録。大先生なら新発見の予言獣をどう描いていたでしょう。妖怪好きならぜひとも座右に！【長野】



寺西政洋・佐々木剛一・佐藤卓・戦狐『日本怪異妖怪事典 東北編』

(笠間書院、2022、¥2860)

全国の怪異や妖怪を北海道～九州・沖縄まで地方別に紹介する全8巻のシリーズ。事例数が圧巻で、一番厚い東北編は驚愕の600頁超。ページをめくれば思うはず。「日本にはまだ知らない妖怪がこんなにいるのか！」【岩間】



森田健司『かわら版で読み解く江戸の重大事件』

(彩図社、2015、¥1320)

予言獣たちの出現も報じられた江戸の「かわら版」。仇討ち、妖怪、災害速報、黒船などなど。多様なかわら版の「事件」を通して見えてくるのは人々の心や生き方そのもので、掲載資料を眺めるだけでも楽しい一冊。【岩間】



峰守ひろかず『絶対城先輩の妖怪学講座 十』

執筆者
自著！

(KADOKAWA、2017、¥693)

妖怪の正体を暴く「妖怪学」を修める主人公が怪異の謎を解く伝奇ミステリーの第10巻。この巻ではクダンを始めとする予言獣伝承の正体に挑みます。シリーズの途中の巻ですが、この巻だけで事件は完結しています。【峰守】



峰守ひろかず『少年泉鏡花の明治奇談録』

執筆者
自著！

(ポプラ社、2023、¥814)

明治20年代初頭、後に幻想文学の大家となるお化け好きの少年が、本物の神秘に会うために怪しい噂を探す連作。予言獣は出ませんが、予言獣のような怪異がまだギリギリ生きていた最後の時代の話ということで……。【峰守】

長野栄俊 [編]・岩間理紀・笹方政紀・峰守ひろかず [著]

予言獣大図鑑

ユルく、愛らしく、謎な獣たち！ 予言獣はこんなにいた！

150点以上の資料を取めた、本邦初の予言獣大図鑑。

構成

はじめに—ようこそ、予言獣の世界へ！—

序章 「予言獣」とは何ものか？

—研究史の整理と再定義—

第一部 予言獣資料図鑑

第一「神社姫・姫魚」系

第二「件（クダン）」系

第三「くたべ」系

第四「奇鳥」系

第五「双頭鳥」系

第六「異鳥」系

第七「アマビコ」系

第八「山童」系

第九「猿人」系

第十「きたいの童子」系

第十一「豊後国に出て候もの」系

第十二 その他

コラムも
収録！

第二部 予言獣論

件（クダン）の予言●笹方政紀

予言から疫病退散へ—刊行物・報道から見る

アマビエの属性の変質と定着—●峰守ひろかず

「予言獣の探し方」メモランダム

—記者のデジタル利活用の事例から—●岩間理紀

繰り返す人魚の流行●笹方政紀

参考文献・資料図版出典／掲載文献

ISBN978-4-86766-026-3 C0020

A5判・並製・344頁＋カラー口絵

定価：本体 2,200円（税別）



編者・執筆者

[編者] 長野栄俊 (ながの・えいしゅん) 福井県図書館職員。

[著者] 岩間理紀 (いわま・りき) 毎日新聞記者。

笹方政紀 (さかたか・まさき) 東アジア佐異学会会員。

峰守ひろかず (みねもり・ひろかず) 小説家。

 文学通信

〒114-0001 東京都北区東十条 1-18-1 東十条ビル 1-101

電話 03-5939-9027 FAX03-5939-9094

メール info@bungaku-report.com

全国の書店でお買い求めいただけます。お近くに書店がない場合は小社に直接ご連絡ください